

④ 【公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院】

住所	〒530-8480 大阪市北区扇町2-4-20		病床数：685床
診療科目	初期診療センター（救急・初期診療科）、呼吸器センター（呼吸器内科・呼吸器外科）、消化器センター（消化器内科・消化器外科）、神経センター（脳神経内科・脳神経外科）、心臓センター（循環器内科・不整脈科・心臓血管外科）、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病内分泌内科、血液内科、化学療法センター（腫瘍内科）、リウマチ膠原病内科、神経精神科、小児科、小児外科、産婦人科、乳腺外科、皮膚科、形成外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科、緩和ケア科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線診断科、放射線治療センター（腫瘍放射線科）、病理診断科、感染症科、漏胸センター、難聴・鼓膜再生センター、プレストセンター、血液浄化センター、健康管理センター		
研修責任者名	福井 基成（副院長）	連絡先：y-toudou@kitano-hp.or.jp 06-6131-1049	連絡先担当者名：藤堂・村上（医師卒後教育センター）
新臨床研修医指導実績	<p>【2023年度採用実績】 内科系総合プログラム：3名、外科系総合プログラム：3名、小児科・産婦人科総合プログラム：3名、自由選択プログラム：3名 その他、たすき掛けプログラムでの受入：9名</p> <p>【2022年度採用実績】 内科系総合プログラム：3名、外科系総合プログラム：3名、小児科・産婦人科総合プログラム：3名、自由選択プログラム：4名 その他、たすき掛けプログラムでの受入：8名</p> <p>【2021年度採用実績】 内科系総合プログラム：3名、外科系総合プログラム：3名、小児科・産婦人科総合プログラム：3名、自由選択プログラム：3名 その他、たすき掛けプログラムでの受入：5名</p>		
研修受け入れ可能診療科	学会認定専門医数		学会認定指導医数
必須科目：内科系（循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、消化器内科）、消化器外科、救急科、麻酔科、小児科、産婦人科、※精神科、※地域研修 ※は、2年目での研修の場合 選択科目：呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、心臓血管外科、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病内分泌内科、血液内科、腫瘍内科、リウマチ膠原病内科、小児外科、乳腺外科、皮膚科、形成外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、緩和ケア科、放射線科、病理診断科、集中治療部	内科：33名、外科：24名、小児科：13名、産婦人科：12名、麻酔科：9名、救急科：3名 ※必須科目のみ記載、その他専門領域での専門医多数在籍		内科：17名、外科：9名、小児科：11名、産婦人科：4名、麻酔科：7名、救急科：1名 ※必須科目のみ記載、その他専門領域での指導医多数在籍
施設の特徴	<p>当院は、「地域医療支援病院」「大阪府がん診療拠点病院」「地域周産期母子医療センター」「NPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定臨床研修指定病院」等の施設認定を受け、地域の医療機関と連携し、専門的で質の高い医療を提供しております。大阪市の中心に位置し、近畿一円より患者様が集まり、研修医はcommon diseaseから専門性の高い疾患まで幅広い症例を数多く経験することができ、院内では研修医対象の「救急講義・実習」「救急症例検討会」「院内CC/CPC」「学会発表予演会」「お昼のレクチャー」に加えて、院外からも著名な先生をお招きした「コアレクチャー」等の教育イベントが盛んに行われています。インターネット・Wi-Fiなどの利用環境はもとより、図書館に医学雑誌、教科書が常備され、E-journal、Pubmed、Up To Dateも、どの端末からも自由に参照でき、充実した研修を行うことができます。</p>		
研修受け入れ可能診療科	<p>【必須の分野のみ記載】 【内科系】 研修1年目の内科研修として、入院患者に関しては脳神経内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科を6ヶ月かけてローテーションする。研修医はレジデントもしくはスタッフ医師と主治医チームを構成し診療に当たります。比較的頻度の高い専門内科を研修することで、Problem listの作成方法と優先順位を考慮したアセスメント法を学びながら、各疾患に対する診断および治療法に関して学んでもらう。さらに、医師としての基本であるカルテの記載方法、入院患者のマネージメント術、コメディカルおよび上級医とのチーム医療、紹介医への情報提供、地域医療室と連携して転院調整を行う方法なども実際の担当患者を通して学んでもらう。 【救急科・麻酔科】 北野病院の救急部門は救急科2ヶ月と麻酔科2ヶ月の計4ヶ月を研修1年目にローテーションする。救急科は24時間、365日、1次救急から3次救急までの患者を受け入れている。時間内は2名の救急科専属の医師（日本救急医学会指導医）が、時間外や休日は内科系、外科系専門医が日直、当直体制で救急の診療にあたっている。救急患者数は年間約25000名で、うち救急車で搬送数は約8,000台、救急外来を受診後入院する患者は約5000名である。心肺停止患者（CPA）は年間約80件を受け入れている。 研修医は、救急科での研修期間より4回程度の時間外日当直の中で、救急専門医や各科専門医の指導の下、全ての救急患者の診察に携わり診断と治療を学ぶ。特に研修1年目の4～5月の2ヶ月間には当直見習い期間を設け、その間に救急当直業務に必要な知識の習得を図っている。さらに2年間の研修期間中に全科の専門医による救急に関連した講義を年間50コマ行っており、それらの講義を受けることで救急医療を学ぶ。 北野病院の麻酔科は年間約3700の麻酔科管理手術を担当しており、そのうち全身麻酔は約3400である。2か月のローテーションにおいてはまずオリエンテーションでシミュレーターを用いた気道確保、気管挿管、腰椎穿刺の研修を行った後、実際の診療に臨み、約80例の全身麻酔、約10例の脊髄クモ膜下麻酔を研修する。また、ローテーション途中で中心静脈穿刺のシミュレーター研修を行う。 朝のICU回診では術後患者のみならず、集中治療中の重症患者の診断、治療方針について集中治療部長から学び、麻酔科術前カンファレンスで担当患者の術前状態、手術の問題点をプレゼンテーションし麻酔方針についてディスカッションする。実際の診療においては、気道確保、気管挿管、動脈穿刺、中心静脈穿刺等の救急医療に不可欠な侵襲的技術を日本麻酔学会専門医のマンツーマン指導の下で研修する。また循環作動薬の使用法、輸液輸血管理、人工呼吸管理についてもその実際を経験する。 【小児科】 症例数が豊富であり、また、小児科各分野専門医（小児免疫・アレルギー、小児心臓・循環器、小児腎臓、小児内分泌・代謝、小児神経）が全てそろい、各分野の専門的指導が受けられる。小児の基本的プライマリケアができるようマスターしておくべき正常小児の発達、正常身体所見、血液検査、画像、生理検査等の正常値、診察する頻度が高いと考えられる小児疾患の診断、治療の基本の研修を目的とする。 1ヶ月間という短期間にてできるだけ多くの入院患者を担当し、頻度の高い小児疾患（肺炎、扁桃炎、腸炎、腎盂腎炎、髄膜炎、熱性けいれん、てんかん、気管支喘息等）の問診、身体所見のとおり方、検査の進め方、治療法を指導医の指導のもとに修得する。 手技的に難しい小児の採血、点滴手技を指導医の指導のもとにできるだけ多く経験し、1ヶ月間の研修終了時には特殊な例を除き一人でできるよう研修する。 新生児回診、外来乳幼児健診において指導医の診察を見学し、正常新生児、乳幼児の身体所見、発達を学ぶ。 小児年齢とともに変化する身体診察正常所見、血液検査、画像検査、生理検査の正常値に關し、小児科各領域専門医の講義を受け修得する。 小児アレルギー、免疫、心臓・循環器、腎臓、感染、血液・腫瘍、内分泌・代謝、新生児・未熟児、神経疾患等の各自興味のある領域の疾患については、それぞれの専門外来の診察を見学する。 【産婦人科】 卒後臨床研修の基本理念は、将来の専門性に問わず全ての医師に必要な基本的な診察能力、判断力を身につけることにある。 産婦人科は、女性生殖器を対象にするという専門性を持つ一方で、人口の半数を占める女性を診療の対象とするという特色を有している。さらに、女性には思春期・性成熟期・更年期といった年代による特有の生理的・精神的特長があり、これらを正確に把握して把握することはすべての医師にとって必要不可欠であると考えられる。 また、他領域の疾患の診断・治療においても、性成熟期の女性における妊娠・分娩・産褥という現象の理解は重要である。 このような背景をもとに、北野病院におけるスーパーローテーション選択研修としての産婦人科臨床研修では、必修研修で身につけた基本的な知識及び手技のレベルを高めると同時に、重症患者管理に必要なより高度な知識及び手技についても身に付けるべく研修する。 【消化器外科】 外科は内科と並んで臨床医学の根幹をなすものであり、臨床医としての基礎を築く上でとても大切な研修と考えている。外科総合プログラムでは、外科分野における基本的知識や手技を、消化器外科研修を通して学び、修得してもらう。なお、外科総合プログラム選択者は1年目に消化器外科2ヶ月間の研修を必修としており、それ以外の内科総合/産科小児/自由選択プログラムでも希望者は消化器外科研修を月単位で受け入れている（1年目、2年目を問わず）。研修期間中はできるだけ多くの患者と接してもらい、指導医の指導の下で消化器手術を必要とする疾患についての解剖・消化器病理学・病理学・治療法などの基礎を理解する。また、周期管理を通じて、一般外科の適切な全身管理についての基本的な知識や技術の習得を目指す。</p>		
研修の概説と特徴	<p>これまでは一律のプログラムであったために、希望進路が決まっている研修医にとっては、やや不十分あるいは逆に期間が長いと感じられるローテーションが存在しました。そこで厚生労働省の規定の許す範囲でプログラムに特色を加え、「内科系」・「外科系」・「小児科産婦人科」と進路の定まっていない研修医を対象とする「自由選択」の4コースに分けました。 全てのプログラムで、自由選択期間は1科1ヵ月以上で複数の診療科を自由に選択できます。このように、研修医の皆さんの志望に応じて4つに大きく分けてはいますが、その中で自由度を最大限残したプログラムです。 また、救急部での2ヶ月の研修に加えて、2年間を通じた救急当直での研修（内科系・外科系専攻医とともに救急当直を行い、最初の2ヶ月は見習い当直を経験します）によって、十分なプライマリ・ケアの研修ができます。麻酔科の2ヶ月は、多いときは1日に4例もの手術例を経験でき、気道確保や気管挿管が確実に行えます。 その他、週1回行う水曜日の「救急症例カンファレンス」、各科のスタッフが月2回土曜日に救急の基本について行う「救急講義」とともに、各科のスタッフや外部講師による基本的な技術・知識を補うための「屋上レクチャー」「コアレクチャー」も行っていきます。コアレクチャーでは、時に院外からの著名な教授・研究者をお招きすることもあります。このように当院での研修では十分なプライマリ・ケアを学ぶと共に各科の専門的な最先端の医学にも触れることができるものと自負しております。 2年間の臨床研修を終えた後は、引き続き「専攻医」として3年間の専門研修が可能です。プログラムは各々の科によって異なり、内科、小児科、麻酔科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、形成外科などでは、当院が基幹研修施設となるプログラムを提供しています。専門研修終了後の進路は、当院スタッフ、大学院進学、他病院のスタッフ等、各自の希望に応じて色々な選択肢が可能であり、病院としてキャリア形成をサポートしています。 研修環境としては、医局は内科系・外科系がそれぞれフロンティアにあり、研修医は医局でも一カ所には集まるよう配慮しています。医局で気軽に上級医や他科医師に相談できるのも本院の特徴です。院内の各コンピューター端末からはE-Journal、PubMed、Up to Date等に自由にアクセス可能で、いつでも最新の文献にあたることができます。</p>		
研修医の当直	<p>救急当直体制は、臨床研修医3名、内科系専攻医2名、内科系指導医1名、外科系専攻医1名、外科系指導医1名のほか、小児科、産婦人科、循環器内科、麻酔科、脳神経外科はそれぞれ単科当直を行っており、いつでもコンサルテーションが可能。 当直回数は、月平均5～6回程度</p>		
処遇	<p><就業時間等> 勤務時間：平日：8：45～17：25 休日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）、開院記念日（6月に1日） 休暇：夏季休暇（6日）、有給休暇10日（初年度） 社会保険：あり 住宅：なし 当直：あり <給与関係> 【1年目】 給 与：263,350円/月 賞 与：270,000円/年 想定年収：約550万円前後 ※下記手当含む 【2年目】 月例給与：305,580円/月 賞 与：350,000円/年 想定年収：約600万円前後 ※下記手当含む 【共通】 当直手当：70,000円前後（月5～6回）…時間外手当・通勤手当別送支給（月額上限50,000円）・住宅手当（月額25,000円 ※本人名義に限る）</p>		

協
力
型
病
院